

2013年2月18日

日本バプテスト連盟に連なる全国の諸教会・伝道所の皆様

東日本大震災現地支援委員会

委員長 鈴木牧人

「東日本大震災から二年を数えての祈り」と

「東北バプテスト連合祈禱課題」の送付について

主の御名を讃美いたします。

これまで、東日本大震災現地支援委員会の働きを覚え、祈り、支えてくださり、心から感謝いたします。

震災から二年が経とうとしています。地域によっては大きな片付けが終わり、建物やビニールハウスなどが新しく建てられようとしています。他の地域では片付けも終わらず、これからの生活も具体的に思い描くことすらできない状況もあります。二年という時間を緊張と不安の中で過ごしてきた方の中には、気力を失い、体調を崩している方もおられます。仮設住宅で亡くなる方もおられます。原発事故が未だに収束しない中、放射能によって様々な被害を受け続けている命があります。地域によって状況が全く異なり、今こそ出会わされている地域の声を大切にしながら丁寧に歩いていくことが求められています。

そのような中、今年も3月11日が近づいてきました。現地支援委員会では、ぜひ全国の皆様に現地の祈りを共有していただきたいとの願いから、「東日本大震災から二年を数えての祈り」を作成しました。この祈りの言葉には、昨年と同様、委員会名と共に、原案を作成した個人名を載せました。それは、具体的な祈りの言葉を紡いでいこうとすればするほど、そこには個人的な主観が入ってしまうからです。しかし、この祈りは最終的には現地支援委員会で言葉を交わしながら整えられた祈りであり、現地支援委員会として思いを合わせた祈りです。全ての祈り、痛みや思いを網羅できたわけではありませんし、十分なものとは言えないかもしれませんが、どうか全国の皆様にもこの現地の祈りに心を合わせていただきたいと願っています。そしてそのことを通して、現地の様子を共有していただければ幸いです。

また併せて、先日行われた東北バプテスト連合祈禱週間の祈禱課題を送らせていただきました。これらの祈禱課題は、東北バプテスト連合の各教会・伝道所が皆様に具体的に祈っていただきたいと願っているものです。どうかこの祈禱課題を用いて、東北を覚えて祈っていただけたら幸いです。また同時に沿岸部にある茨城、千葉の教会・伝道所も覚えていただけたらと願います。

最後になりましたが、貴教会・伝道所の歩みの上に、主の祝福と恵みが豊かにありますように、心からお祈りしております。皆様のご支援に心から感謝して。

在 主